仙台青葉城 ワイズメンズクラブ

THE Y'S MEN'S CLUB OF SENDAI-AOBAJOH

CHARTERD JAN3、1980

〒980-0822 仙台市青葉区立町 9-7 仙台 YMCA 内

TEL(022)222-7533 FAX(022)222-2952 E-mail:kato@world-travel.co.jp

◆国際会長主題【Let Your Light Shine.】輝かそう、あなたの光を Ulrik Lauridsen(デンマーク)
◆アジア太平洋地域会長主題【Be the light for change】変革のための光となろう 利根川 恵子(川越)
◆東日本区理事主題【Instil Confidence in our Youth】未来のために今、学びと気づきを！山田公平(宇都宮)
*スローガン:ユースアクションをワイズの主要な活動の一つに
◆北東部部長【ユースと共にクラブのミッションを育てよう】 大久保知宏(宇都宮)
◆クラブ会長 【ワクワクしながらワイズを楽しもう！】 加藤重雄(仙台青葉城)

＜今月の聖句＞

喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣きなさい。互いに思いを一つにし、高ぶらず、身分の低い人々と交わりなさい。自分を賢い者と思ってはなりません。誰にも悪をもって悪に報いることなく、すべての人の前で善を行うよう心がけなさい。できれば、せめてあなたがたは、すべての人と平和に過ごしなさい。 ローマ 12 章 15 節。(旅立ち、若者たちのために)

2024 年**3月**

CS

(Community Service)
地域社会への奉仕活動

巻頭言 13年目の3．11を迎えて ～つながりをもっと広げよう～

仙台 YMCA 総主事 加藤雄一

3 月 15 日(金)仙台 YMCA 国際ホテル専門学校にテイラー文庫が寄贈されました。寄贈者であるテイラー記念基金は、東日本大震災で亡くなった石巻の英語補助教員をしていたテイラー・アンダーソンさんのご両親が、愛娘の遺志を継ごうと呼びかけ集められた支援金によりはじめられたものです。

震災後から今年まで毎年、専門学校生の学費の支援も続けてくださっています。アンダーソンご夫妻もテイラーさんもアメリカ・リッチモンド YMCA の会員で、お二人の出会いも YMCA だそうです。震災から 13 年、このようにいまだ忘れることなく支援を継続していただいていること、本当に感謝です。震災は悲しい出来事ではありますが、これによって生まれたつながりは決して失ってはいけないことであると思います。多くのつながりが生まれる YMCA とワイズメンズクラブ。出会いとつながりに感謝しつつ、もっともっと積極的に枝葉を伸ばして強固なものにしていきましょう。

※テイラー記念基金 2008 年 8 月から 2011 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災の津波で亡くなるまで、宮城県石巻市でJETプログラムの英語指導助手として赴任していたテイラー・アンダーソンさんは、石巻での生活をこよなく愛していて、2011 年 8 月にアメリカへ帰国予定後も、日本と関わり続けたいと願っていました。テイラー記念基金は、ご遺族が彼女の夢であったアメリカと日本の架け橋になるという遺志を引継ぎ、石巻と東北地方の学生、学校、家族の皆さんの復興援助・支援することを目的として設立されました。

2 月例会	出席率 63 %	スマイル	ファンド
会員数 16 名 出席者 10 名 MakeUp	メネット 1 名 コメット 名 ゲスト 3 名	80，500円	126，180円

会 長 ： 加藤重雄
副会長 ： 井上勇二郎
書 記 ： 涌澤博
会 計 ： 菊地弘生
ﾒﾈｯﾄ会長：加藤真子
担当主事：土橋敬太

あれから13年　3．11特集　＜震災とわたし＞

あれから 13 年が経ち、あの年に生まれた子供たちはこの春中学生となります。能登半島震災で被災された方々へも心よ寄せながら、“あの日を忘れない、あの日を伝えて行こう”という思いで、皆さんから寄稿していただきました。あの日起こったことは辛いこともたくさんでしたが、人々の、そしてワイズの力強さを感じることもできました。皆さんもあの時を思い起こし、そしてこれからの姿を思い描いていただければと思います。

●阿部頌栄

先日、わたしたち家族はハリさんご一家と休日を過ごした。子どもたちがとても元気に、元気すぎるくらいに仲良く遊んでいた（ハリさん、ありがとうございました）。

東日本大震災から、間もなく 13 年となる。この間、共に生きる人と出会い、子どもにも恵まれた。子どもたちにとって震災は過去の出来事だ。そんな子どもたちにわたしが伝えられる震災の経験とは何なのかを思わされる。いや実は子どもたちが軽々と、心から、繋がっていく姿に、震災で学んだこととは何だったのかを、わたしの方が教えられている。震災でのわたしたちが学んだこととは人のつながりが持つ価値であり、可能性だったはずだ。また反省であり、痛みを恐れることなく、より良いもの、より正しいものを選びたいという願いだったはずだ。「地震は怖い」「悲しい出来事だった」。それに留まらない「震災とわたし」を、見失わないようにしたい。子どもたちの姿からそんなことを教えられた休日だった。

●尾木善宣

２０１１年３月１１日。１３年経ってもあの日の記憶は今でも鮮明に覚えています。
台原中学校の卒業式をから戻ってきて一息ついていた時に起こりました。子どもが「地面が波打ってた」と言って児童館に戻ってきました。そこから、放送などがあったわけでもなく地元の住人が小学校に避難してきました。児童館も一部の避難者（インフルエンザ発生者）を隔離するため解放しました。その日は自宅に帰ることなく、帰ることが出来なかった職員とともに児童館の整理と避難者の対応に追われました。

翌日から、仙台市の指示のもと行政や避難対応で必要な家庭の子どもの預かりと避難所と協力した柔軟な対応と利用者の安否確認の実施を行いました。安否確認完了まで１週間かかりました。体育館で卒業式が出来ない６年生のために小学校の多目的室で卒業式を実施した記憶もあります。あの時卒業した児童も今は立派な社会人になっております。

先日、ばったりその時の児童と出会って色々この時の話をして盛り上がりました。その児童の言った言葉がとても印象的でした。「コロナも大変だったけど、震災の方が何倍も大変だった。このまま普通に生活が出来なくなるかと思った。だからそのあと児童館で過ごしながらリーダーたちの声掛けで色々考えて行動することが出来るようになったし、心も強くなったと思う。ある意味リーダーたちのおかげかも」とさらっと言っていました。震災後は子どもたちに寄り添うことも大切にしてましたが、逆にこういうときだからこそ、どうしたらよいかを考える言葉がけを意識して実践していたことがきちんと伝わっていたんだと嬉しくなることがありました。時代は風化して忘れられていっておりますが、この児童のように成長のきっかけとして記憶に残っていることもあります。これからも震災を忘れずにいこうと強く思います。

人のつながりの大切さ　●岸田清実

大震災当日、避難所になった地元の市民センター体育館は６５０人の避難者で横になれない状態で何度も大きな揺れが起きて不安が増す夜でした。避難所の運営にも携わり、食料確保と炊き出し、ストーブと灯油の確保、避難所運営の人手の確保など普段のつながりがこういう時に生きるということをつくづく実感した機会でもありました。地域の各種団体の活動も「不要論」 が出かねない最近の世相ですが、普段のこのような積み重ねがいざという時に生きるし大事なのだと 3.11 を迎えると思い起こします。

●南澤一右

東日本大震災があったその日、私は石巻市門脇(石巻で津波の被害が甚大であった地域の一つ)に仕事で行く予定でした。ところが、震災の直前、2 月末に父が危篤になり、3 月 2 日に亡くなり、石巻の予定を延期することにしました。この出来事がなければ、私は今こうして文章をかくことがなかったと、私は父に助けられたんだ！と感謝の気持ちでいっぱいです。
震災当日は、石巻の代わりに大崎市古川(仙台から高速で 40 分ほど北にいったところ)で、ちょうど車内にいました。地震発生の直前、緊急地震速報が鳴り、急ぎ近くの空き地に車を止めました。その直後、あの大地震が発生し、目の前の電柱は釣り竿のように揺れ、道路を挟んだ向かいの 2 階建ての戸建ては、目の前でみるみるうちに 45 度ほど傾いてしまいました。震度4以上の地震としては、3 分ほど続いていたそうですが、体感的には 5 分以上続いているようでした。それから、自宅のある仙台に戻りましたが、古川ずっと渋滞で 10 時間ほど掛かり、仙台に着いたのは、夜中の 12 時過ぎでした。それから、家族を探し、義母の家、母の施設に自転車で様子を見に行きました。義母は自宅におらず、何か所も避難所を回りやっと無事を確認することが出来ました。その後は、津波の被害の後片付けのために石巻に 1 ヶ月ほど通いました。おにぎりを持って、(全停電の中)早朝出かけ、日が落ちたら帰ってくるという毎日でした。津波が運んできたものには、預金通帳や写真、子どもの答案、日用品など、津波の恐ろしさが痛感させられるものばかりでした。仙台で水やカップラーメンが購入できるようになってからは、石巻の被災者に差し入れをしましたが、お礼に配給のパンを頂きました。毎日同じパンで飽きているということでした。期限が切、れているパンもありましたが^^;、ありがたく頂きました。津波の被害がひどい地域も車で走りましたが、本当に悲惨な状況でした。車(車体に矢印が書かれた車もあり)が転倒していたり、建物に突っ込んでいたり、基礎が少しだけ残っている建物や流されてきた漁船等々、本当に目に余る光景です。その時に撮影した写真の一部を添付します。
10 年を経過した今もなお東日本大震災の爪痕が残っているところ、残っている人がいます。ワイズメンズクラブの一員としてこれからも出来ることを続けていきたいと思います。　※お蔵入りの 10 年誌の原稿より　当時北東部長

鯨大和煮の巨大缶詰広告
（2011 年 3 月 31 日撮影）

石巻日和山から新浜町を望む
（2011 年 3 月 31 日撮影）

陸に打ち上げられた漁船
（2011 年 3 月 31 日撮影）

がんばろう！石巻　復興するぞ！
（2011 年 12 月 29 日撮影）

東日本大震災を憶えて

●古屋　博規

２０１１年3月１１日午後2時46分　東日本大震災被災地から遠く離れた東京でも、 幼稚園では卒園式行事の準備で慌ただしい毎日を過ごしていました。この日　贈呈する園児用讃美歌に名前を入れてもらうため、車で 17 号線を移動中、私の運転している車の上の高速道路の高架下の橋が大きく大きく上下に緩れていました。上を走る道路も、もの凄い揺れで今にも高架下に落ちてきそうな大きく長く続くゆれ、あの時の恐怖は忘れられません。道路沿いの建物やビルの中から人が大勢外へと飛び出してきて、たちまち道路沿いは人だかりでいっぱいになりました。大きな揺れは同じマンションの西側東側と、向き方によっては一方は本棚から本が飛び出してしまい部屋にあふれました。もう一方の部屋は何一つ落下しなかったというお話も聞きました。また、帰宅困難者でどこの道路も歩いている人でいっぱいになりました。友人は、山梨から会議で上京しており、その日は我が家に泊まってもらいました。
3.11の復興を1日も早く解決へと導いてくださる様にと祈らずにはいられません。
教会では、前任地の教会員の家族が芸大に在学中でしたので、早速、支援復興コンサートの依頼に快諾くださり、コンサートが開かれました。まだまだ続く被災地復興のため、記憶のアーカイブを続けたいです。

●櫛引修平

震災当時私は中学 3 年生でした。卒業式前日最後のホームルームが終了して教室で友人たちと別れを惜しみ談笑していました。その時 14 時 46 分に東日本大震災が発生しました。発生直後の状況は皆様が知っての通りです。保護者引き渡しの関係で私が 3 月 11 日自宅に帰られたのは夜の 10 時頃でした。震災後は卒業式も入学式も未定の状態で、校舎に残されたかばんを回収したのは 3 月末頃でした。

私は運動部で体を動かくすことは得意なのと、中学時代の陸上部の顧問が「困っている人がいれば助けなさい」という教えがあり、震災後は時間と体が許す限り災害復興活動をしていました。本来であれば 16 歳未満の沿岸部での災害復興活動は禁止なのですが、名取のボランティアセンターに友人たちと掛け合い、保護者の同意を得るという条件の元活動していました。全身泥だらけになりながら土砂撤去作業を行い、沿岸部の住人から「ありがとう」という言葉をいただいたのは今でも鮮明に覚えています。

私はまもなく 30 歳になろうとしていますが、体はまだまだ若いので今後も災害などがあった際は可能な限りサポートや支援を行っていきたいと思います。

●涌澤　博

その日は、明日からの会長研修会に参加する為、会社から自宅マンションに一度戻り準備をしていました。携帯電話から聞いたことのない音が出てから 3 分ほど長く強い揺れが続き、次々と家財道具が倒れていくのを壁につかまりながら、ただ見ているしかありませんでした。その後、自宅両隣の安否を確認し会社に戻り妻を救出した後、カーラジオで地震の情報を聞いていたが、「大津波警報が出ているから逃げろ」の情報しか得られず、そのまま歩いて帰宅しました。いつも使っているラジオを部屋のがれきの中から何とか探し出し聞いていたが、津波の影響でラジオも東北放送は聞けなくなり、NHKが何とか聞き取れる状態でした。真っ暗の自宅でNHKの雑音放送で海岸に数百体の遺体があると言う情報と原発非常事態が発令された事を伝えていた事が忘れられません。

●加藤真子

13 年前、社員と一緒に会社から車に避難し、その時カーラジオから流れた「荒浜海岸にたくさんの漂着者が・・」のニュースに皆で愕然として顔を見合わせ、とんでもない災害が起きたとわかりました。社員（中国人）のご主人が亡くなり、あちこちの安置所をまわったことを思い出します。その後の生活の不便さはあまり思い出せないのですが、いただいた親切は今もしっかり覚えています。また妙高高原に集められた全国のワイズからの支援物資が仙台 YMCA にいち早く届けられたこと、私たちメネットはボランティアの皆さんへ週に2回のお弁当作りを続けたこと、壮絶な体験をした野蒜小学校の子供たちと昼食交流をしたこと、DBC クラブの姫路グローバルの皆さんと一緒に泥かきをしたこと等・・、ワイズの力強さと素晴らしさをあらためて思い起すことができます。3. 11 を迎えるたび、これらのことは忘れることなく、また震災を知らない子どもや孫たちにも、たくさんの尊い命が亡くなったこと、そしてその後の復興の力強さを伝えていきたいと思います。

YMCA に届いた全国からの物資

野蒜小学校の子供たちと

2014 東日本区メネット会（桂島訪問）

ボランティア・ボランティア

●金原　道子

13 年前、ボランティアの方々がたくさん宮城県に来て下さり、仙台 YMCA 会館に泊まりながら現地に行かれる人もおられました。当時まだ近所のお店も開いてなく、出来れば弁当を作って欲しいとの依頼がありました。バスが YMCA を出発する7時30分～8時までに届けて欲しいとのことでした。前夜に、明日は10人分とか15人分、多い時には30人分くらいの連絡があり、夕食の終わった我が家のテーブルに白い弁当箱を並べ、弁当屋さんを始めました。他のメネットさんもお菜にと届けて下さったり、また労いのメッセージカードを作ってくれたメネットもおりました。
今思い返すと、よくやったものだと思います。

●齋藤　篤

東日本大震災から、もう 13 年も経ってしまいました。毎年思うのですが、そんなに経ったという実感がまったく沸いてこないのです。しかし、周りを見渡せば、そのくらいの時間が経たなければ、息を吹き返して、ここまで物事が進んでいることはないのだなとも思わされています。もちろん、いまだに置き去りにされているような状況も、確かにあるのですが。。。

あの日、私は静岡におりました。気味の悪い横揺れが、長時間続いたことを覚えています。静岡にいれば、東海地震をすぐに思い起こします。しかし、ガラケーで表示されたのは、宮城県震度７の文字でした。当時住んでいた教会は東京電力のエリアにありましたので、計画停電というものを数度経験しました。しかし、数百メートル先は中部電力のエリアでしたので、灯が煌々と照らされている川向うを見ながら、暗闇の夜を過ごしたのを思い出します。原子力発電のもたらす光と闇というものを、改めて実感するひと時でした。

2/15(木)　２月第一例会＜能登半島地震現地報告＞　仙台 YMCA　堀越祥浩さん

1. 開会点鐘　メネット会長　加藤真子
2. ワイズソング・信条　一同
3. 会長挨拶　メネット会長　加藤真子
4. 今月の聖句朗読　齋藤　篤
5. 会食　食前感謝　齋藤　篤
6. **能登半島地震　現地支援報告**　仙台 YMCA　堀越祥浩
7. YMCA 報告　担当主事　土橋敬太
10. スマイル
11. ハッピーアニバーサリー　メネット会長　加藤真子
12. 閉会点鐘　副会長　井上勇二郎

その後、懇親会場（KUMARI 仙台駅前店）移動

KUMARI での懇親会

1 月 20 日から 31 日まで、健康教育事業部の堀越祥浩さんはアドバイザリースタッフとして、1.5 次避難所「いしかわ総合スポーツセンター」に派遣され、そこでの貴重な活動報告をお聞きしました。堀越さんからは「一人一人の違いを認めること、傍観者にならないこと」と話され、東日本大震災を体験された者として皆さんから頼られていた様子がよく伝わりました。堀越さん、ありがとうございました、お疲れ様でした。

メンバー紹介(7)

齋藤　篤　さん

青葉城ワイズの皆さま、あらためましてこんにちは！齋藤篤と申します。一昨年の秋からワイズメンに加えていただきました。普段は、宮城野原は育英高校の裏にあります、日本キリスト教団仙台宮城野教会の牧師をしております。2022 年春東京から転任しました。教会牧師のかたわら、錦町にある日本キリスト教団東北教区センター・エマオの主事もしております。

私とＹＭＣＡとの関わりは、今から 20 年以上前に、東京ＹＭＣＡでアルバイトをしたことから始まります。東京Ｙが神田にあった最後のアルバイトの一人でした。その後 2006 年に牧師として最初に赴任した静岡・富士で、近くに誕生した富士山ＹＭＣＡの運営委員として活動の一端に関わらせてもらいました。東京でも静岡でも、その活動にはワイズメンズの皆さんの熱意のある姿があり、ボランタリーな精神を持たれた皆さんから多くを学ばされています。

そして、現在は入会が許されて、青葉城ワイズの末端にある者ではありますが、また、なかなか活動に参加できない心苦しさもありますが、それでも楽しみつつ、皆さんとの触れ合いを大切にしたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

YMCA ニュース

報告：土橋敬太

4月4日（木）西中田こども園　入園式
南大野田こども園　入園式
加茂こども園　入園式

4月5日（金）長町保育園　入園式

4月6日（土）幼稚園　入園式
国際ホテル専門学校　入学式

3月14日（木）
仙台 YMCA 国際ホテル専門学校卒業式
ホテル科＆国際おもてなし科8名が巣立っていきました。

皆さん入園・入学、そして卒業おめでとうございます！

3月 HAPPY BIRTHDAY

3 月 23 日　涌澤　寿美江さん
3 月 30 日　車塚　博子さん

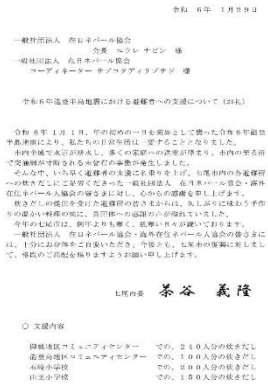
1月・2月のブリテンが発行できず、1月と2月の誕生日の方をお知らせします。

1月　1日　加藤重雄さん＆ 櫛引優佳さん
6 日　佐竹辰太郎さん　23 日　岸田彰子さん

2月 16 日　岸田清実さん　23 日　菊地弘生さん

＝在日ネパール協会　炊き出し支援＝

ハリさんの所属する在日ネパール協会が、能登半島地震で被災された方々に一早く支援の名乗りを上げ、炊き出しを実施。七尾市より感謝状が送られました



令和 6年 1月29日

一般社団法人　在日ネパール協会
会長　ニクレ　サビン　様
一般社団法人　在日ネパール協会
コーディネーター　チンコタディラプチド　様

令和6年能登半島地震における避難者への支援について（お礼）

令和6年1月1日、年の初めの一日を突如として襲った令和6年能登半島地震により、私たちの日常生活は一変することとなりました。
市内全域で水道が停止し、多くの家屋への倒壊が続き、市内の要名所で交通網が寸断される未曾有の事態が発生しました。
そんな中、いち早く避難者の支援に名乗りを上げ、七尾市内の各避難所への炊き出しにご協力くださった一般社団法人　在日ネパール協会・諸外国在ネパール人協会の皆さまに対し、心からの感謝を申し上げます。
炊き出しの提供を受けた避難所の皆さまからは、久しぶりに味わう手作りの温かい料理の味に、食欲旺盛の姿が見受けていました。
今年の七尾市は、例年よりも厳しく、寒い日々が続いております。
一般社団法人　在日ネパール協会・諸外国在ネパール人協会の皆さまには、十分にお身体をご自愛いただき、今後とも、七尾市の復興に対しまして、格段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

七尾市長　茶谷　義隆

○ 支援内容

御祓地区コミュニティセンター　での、２４０人分の炊きだし
能登島地区コミュニティセンター　での、１００人分の炊きだし
石崎小学校　での、２００人分の炊きだし
山王小学校　での、１５０人分の炊きだし

＜編集後記＞　毎年3月が来ると、3. 11 の出来事が蘇ってきます。今月は＜特集＞として、皆さんに当時のことを振り返っていただいたり、これからへの思いを綴っていただきました。寄せていただいた皆さん、ありがとうございました。
奇しくも今年お正月に発生した能登半島震災。YMCA からの支援、ネパール協会の炊き出し支援など、心強い報告が続きます。また3月は卒業のシーズン。これから羽ばたこうとする子供たち、学生の皆さんに幸あれ！と心より祈ります。